

風

風

NO. VI





# 偶感

部長 大竹 勝

「順風に帆をはって進む小舟」

*Small boats that sail before the wind* はイギリスでは幸福の姿であると言った作家がある。  
*up the wind* : *to the wind*

とは風に向かって航行することであり、逆境に用うことを比喩的に *to sail against the wind* と表現することもある。

「風はヨットにとっては、大事な自然の要素であるが、海洋国民であったイギリス人は人生行路の表現にも取り入れているのである。」

ヨット部の諸君は毎日の訓練

において間接的には人生の鍛錬をしていることになる。首で風の方角と強弱を知らねばならぬのにマフラーをしていると言って部員がゴークにたしなめられた事を私は記憶している。

ヨット部の諸君がスポーツのテクニシャンで終りないことを念願してやまない。

幹部としての一年間

第十四期主将 瀬戸本哲哉

八月任期を終え一年間を

ふり返ってみますと短かいようであり  
長かったような気がします。安全に活動  
を行なうことができましたのも皆様のお  
かけであると思っております。

私に任された時よりモクラブを

発展させて次の者へ託そうとこの  
思いが一年間重くのしかかりました。しか  
しながらイニカレにおいては不本意な成績  
に終り全く遺憾でありました。レ  
又は瞬間的な人間のドラマです。そ  
の瞬間は四年間の蓄積としてからだ  
の中に残り続け、将来への布石となる  
ことを確信しております。

約四年ぶりに4クロを購入すること

ができたことはやはり、特筆す  
べきことであると思っております。  
理想としては、毎年一艇購入す  
ることであると思っております

後輩諸君たちはこれから  
それがきつとできるであろうと思  
います。

そして私はこの一年間の活動  
において不十分ながらも皆様  
の力添えのおかげでまがりなり  
にも行えたと思っております。  
その一例として、ヨット教室  
を行なうことができたことは非常  
に意義のあることでもあります。

二回三回と回を重ねるごとにこ

れから軌道にのっていくものと思えます。

伝統を守りながら更に発展させる

ことは容易なことではありません。しかし、そのまま甘んじていては進歩はなく後限ばかりです。常に伝統を礎にし、試行錯誤後まくり返しなから行うことと自身をも。経験しました。

この一年間は過去の年間よりも実に多くのことを学びました。合宿所で直接の指導を賜りました。安住さん、そして部長、監督、コーチならびにOBの皆さんがたに厚くお礼申し上げます。ありがとうございました。

第十五期 主将

清水 千佐子

主将として、任命されてから半年が過ぎました。

合宿においては、4年生の協力も得練習に励み、無事、秋の新人戦を終え、これから春のイカレへと皆でファイトを燃やしている次第です。

私は、まず第一に、ヨット部としての、代々の「責任」「和」「忍耐」「誠意」という伝統を引き継ぎ、ムヒリヒトリヨット部活を通し、本来の人間としての姿を追求していきたいと思う。

ヨットに乗らない時のヨット部員、二休ことと本来のヨット部であり、我々が合宿生活で学び、ヨットに

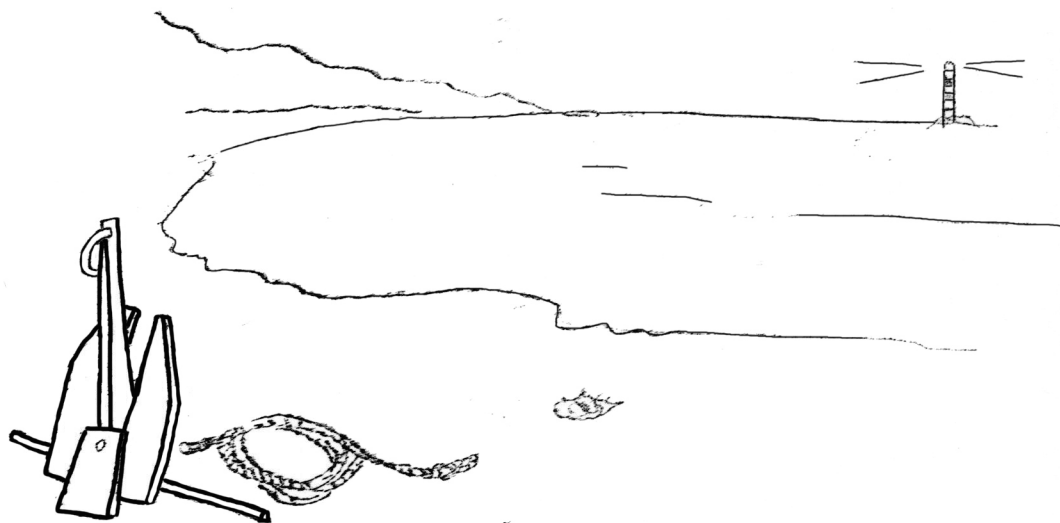
乗って学んだ、すべてがこの時に現われると思うからである。

謙虚さ、ひたむきな心、を忘れずに常に、新しい気持ちで何事もとりにくみたい。練習日において、必要な事は、常に新しい気持ちであり、いつも、はじめて乗艇した時の事を忘れずに、真儼にとりにくむ事である。と思う。

隋性はけっして許されない。命がけでヨットに乗ろうと思う。シーズンは結果である。それゆえ、ひとつひとつ、これらの信念で合宿を通し、絶対に勝とうと思う。

私が皆に望む事、それは、

命をかけて練習をし、常に目  
己にきびしく、謙虚な気持ち  
を忘れずに行ってほしい。又  
ヨット部員である誇りを常に  
からだ全体で感じていてほし  
い。  
4年間をフイやし、つらさの中  
でクラブにうちこんでほしい。  
また、あと二年、安全を守り  
頑張りとうと思います。  
O・Bの皆様はじめ、先輩方  
よろしく御指導をお願いいたし  
ます。  
学内、学外を問わず我々ヨッ  
ト部の存在を確立することが  
私の指命であると思う。



思うがままに (完結編)

第5期主将 瀬戸本 哲哉

大学四年間はそのままクラブでの四年間でもあった。こんなこともあった。あんなこともあった。したんだと次から次へと頭の中で描くことができろ。

そしてそれが今私のステップとになってくれているような気がする。こうして最後の凡見をかいていると、一様の寂しさを感じてくる。新人部員として荒崎の海を初めて見、今現役として荒崎の海から離れようとしている。ヨットを通して様々なことを教わり学んだ。学生たるスポーツにおいて不可能はないと思う。到底可能でないことにも体当たりし、少しでも近づき、失敗してもそれは悲観するものではないはずである。

最初から不可能とキめてかかるのではなくまた、批判・批評をする向にも何らかの行動をとり対処していくことこそ、学生スポーツでは貴重なものがある。そして、学生スポーツも一つの社会生活である。当然ゆきまえないければならないルールもある。ルールは人に教えられることもあるが、自分で認識してもいかなければならないものである。又、その認識は又各学生、各人によって異なってくるものである。

ヨットは実に様々な教えきれないほどのものを教えてくれる。技術的なものはもとより、その範囲は実に広範である。しかしそれも主体性がなければまた考えなければ、ガレに水を流すようなものである。一部員として積極的行動をとる



なつた時にそれはおそろくを突したも  
のとなるであらう。個人としても自信と  
なるものである。一部員としてよく考え  
てみると、ヨットと興味がある、クラブが  
おもしろい、いろいろあるだらう。それな  
りのプラスもあらう。上級生へすすむ  
につれて個人としてのクラブから全体  
的なものへと範囲を広げて、目を  
向けていかなければならないものである。  
クラブは数十名のそれぞれ異なる  
人間の集まりである。集団としての目  
標は二だが、部員ひとりひとりの当  
面の目標、課題はそれぞれに違ふもの  
である。今、自分はクラブのために何  
をしなければならぬかとよく考えて  
みなければならぬ。そしてそれぞれ  
の部員が惜めなくチャレンジしていかな

ければならぬものである。  
今後、社会人となりどんな強  
風・波にもあおうと東経大ヨッ  
ト部のヨットマンシップは忘れず  
に舵をとり続けるであらう。

「卒業にあたって」

四年岡司郎

またたく間に過ぎ去ろうとしてゐる私の学生時代の終点、向近において、いよいよこれで最後だと思つたとまた一段と感慨深くなりまゝです。さてここで四年間の思い出とか印象などについて言おうとするつもりは全くないのですが、私の過ごして来た四年間は、たとえ同輩であつたとしても全く違つたものになつてゐるやうです。それ故、私の限られた経験など何の参考にもなるなへと思つたのです。それぞれの状況に応じて各人が適切な判断を下してゆくしかた

いのではないかと今頃、思つてゐます。四年間という時向は長いように感じて、とても短かいのです。特に青春のまん中を行く人にとつては短かすぎて何もできないのです。あれもこれもと欲ばつても、何ひとつ完全にはできません。そして、この不完全さについていつも悩みながら生きてゆくのが、青春であるとも言えるのですが、その点、今考へると、良かったと思つたことに合宿のことがあります。合宿中は世の中に起つてゐる諸々の出来事や身辺の変化などが、

全く知らずにただひとつ「ヨッ」  
 のことに集中していられるのです。  
 何と素晴らしいことでしょうか。それ  
 故後になって合宿生活のこと  
 がなつかしき学生時代の思い出  
 となってくるのではないのでしょうか。

本当に書こうと思えば一冊の  
 本ぐらゐの量に足りそうだな。そ  
 んなにとくさんの思い出が私の  
 頭の中につまっていきます。もちろん  
 楽しいことばかりではありません。  
 むしろ苦しかったことの方が多々ありま  
 す。それはいいかと思っております。そしてこの  
 苦しい思い出の方が、ずっとな  
 り心に残っていくのではないかと思  
 っています。また楽になる思い出も

けにとどまらず、後にならざる  
 い時の励みとなり、人向としての  
 自己形成に役立ってあげたいと  
 思っています。

青春とは心の若さである。  
 信念と希望にあふれ、勇気にあふ  
 り日に新たな活動をつづける限り  
 青春は永遠にその人のものである。



NHKの風見鶏

(PHP社)

(完)

無題

4年 渡辺幸徳

短かかたヨット部生活が  
今終わろうとしている。僕にと  
て海とともに過ごした約2年  
の年月はすばらしい体験で  
あった。およそ海とは関係が  
薄かた僕であるが、どう言う  
わけか気がついた時には、毎の  
中で泳いでいた何もかもが珍  
しいことばかりであった。知ら  
ず知らずの内にヨットに夢中  
になってしまった。部員数七名  
という時もあった。何から何まで  
自分の手でしたことも覚えてい  
る。まさかと思つたし、スにま  
で出場できた。

北風が強い日がありました。南風が  
強い日もありました。救急車が  
2回やってきました。今思い起して  
みると海がとて怖いものである  
とつくづく思いました。あの時一っ  
まろがえたらと思つたとぞつとし  
ます。これからは、部員も多  
なりクラブも活気がわいてくるで  
しょうが、それだけに各自が責任  
をもつていないと危険な場面  
に出会つても、知らなかつたでは  
すまされない。にもなりか  
ねます。最後に、お世話になつた  
安住さん、監督さん、荒崎のおほ  
さんに御礼を申し上げます。

# 無題

四年 岡野雄一郎

まず最初に私は四年で  
普通なら卒業を向かえて  
の意見を述べるのですが  
いろいろな事情により、もう  
一年クラブ生活を送らな  
ければならず、はっき  
り言えば留年なのです。  
ただ、現在の一年生のヨ  
ット帆走の技術がだんだ  
ん上達してゆく姿を見る  
のが、とっても楽しい。  
また自分もできる限り

それを手伝ってやればと  
思いますが、そしてできる  
なら残りの一年間に自分  
の進べき道を決めようと  
思います。いかなれば自  
分にとってこれからの一年  
は、執行猶予期間だと思  
っています。がんばりま  
す。そして、現在の一年生  
の成長に期待します。

## 「ヨシト部の組織を解明する」

木林 幸一

体育会ヨシト部は組織の一つであり公式組織である。組織とは同一の目的を持った者の集合体である。

それでは同一の目的とはインカレ全日本優勝ということである。がこの前にヨシトという道具を用いることによつて肉体的にも精神的にも健康な人間を作り上げることである。

このためには組織体内の人間の意思統一が必要である。意思統一とは目的のための統一であり、これがないと組織はばらばらになつてしまつたろう。

次に必要な事は伝達である。公式組織においては目的を遂行するためと組織の人間を動かすために体育会トシプの人は絶対的な権限を持つていなければならぬ。そのためには下級組織の員たち

は命令に中心実でトップの△印グループに対しては、確實でなければならぬ。しかし、絶対的な組織に対しては、これについていけぬ者も出てくるであろう。

こうい、た者の集まりは一つの集団になり非公式組織を形成するであろう。

これに対してトップはどう対応すべきか、トップの腕の見せどころである。

私も人間を二十三年間やっているといろいろな事を考へる。これから働くわけであるが、でも僕は泣かないよ。

以上

今わたしは

三年 清水 千佐子

昨年今ごろ、私は陸からヨットを愛し海を愛し……と思いいし、スにかける男の人をうらやましく感じていた。一身たち今の私は海の上からヨットを愛し海を愛している。そして10月にははじめて、リスを経験した。男の人の中で私は東経大のひとりとして出艇していった。出艇前のあの感激は向とも言えず、ひとり柔しかった。あの強風とうねりの中で何しろ必死だった。そして勝とう必死で走った。しかし、練習不足、技術の差、やはり、気力、根性のみでは勝てない事をしめじみ感じた。くやしかった。

二度とくやしい思いはしたくない。あとわずかで合宿に入る。私は志崎に行くとなんともいえない、安心感を感じてる。そして皆の元気な顔を見ると、どんなに私を元気づけてくれるか。

この三年間すべてがヨット部での生活であり、部員としての誇りと自信は、だれにもまけず持ってきたつもりである。それが私の生き方であるし、私のすべてであると思っている。どれだけあと残された日々の中で自己をみつけ出すことができるか。そして苦しき悲しきを経験するか。必死で飛び込んで行こうと思おう。



2月末には新艇2隻、荒崎の海に出航する。そして6隻の470が冷たい海と戦うのだ。

春のイニカシに向って。

へ4年生卒業にあたって

4年の先輩方ほんとうにありがとうございました。

今私が主将として引き継いで以来就職でいそがしい中暇をつくっては、毎回、合宿に来ていただき、いつもお世話になった事、感謝の言葉でいい表ゆせないくらいです。先輩方、ほんとうにありがとうございました。

4年間ごくりつまでした。

感謝をこめて4年生へ

春のらびい

三年 丸山 以久子

ついでこの間お正月だと思っ  
たら、もう二月に入っちゃいま  
いました。去年は、いろいろな事が  
ありましたが、本当にあつ、こ  
うに過ぎてしましました。去年  
から始めたヨット教室たいへん  
だ、たけれど、なかなか思ひ出  
深い事もありません。

現在、私の同輩である清水サ  
くんは、ヨット部主将という責任  
のある役柄を、北背負い、去年から  
がんばってやってきています。  
彼女にとって主将という役を  
降りるまで、本当に息をつく

暇もなくたいへんだろうと思  
それだけに私は私なりに彼女を  
助けて、陰の部分で頑張ってい  
うと思えます。あとクラブも私に  
とって一年ですが、常に謙虚ヤと  
ひたむきな気持ち忘れずに、  
やっていきたいと思っ、ています。それ  
には、もっとも、と自分に対する  
厳しさをもち、その時、その時の  
自分を振り返る事もなければ、  
と思っ、ていますが、なかなか思っ、  
うにゆきません。まあ、まごまご  
ていると、三月!! また合宿生活  
に入る。その前に、ヨット部企画

のスキー教室が19日から21日までである。先輩方も楽しみにしていらっしやるので、計画をうまく立てて、お世話になった先輩方に学生生活最後の楽しい思い出を作っていた。たけくら幸に思います。暦の上では、すでに立春も過ぎたけれど、まだまだ寒さがきびしい。ヨト部全員が力を合わせて一つになって、また三月から、かんばっていきましよう。まごまごしている、四月までかけ足でやって、きそうな気がいたします。四月から新気一転して、すてきな再スタートができるように、今から心の準備をしておかたいと。

五月には、再びしーすがある。一年生も、五月には二年生と呼ばれる事になるわけだが、本当にひたむきな気持ちで、すべての事をやっていてほしいと思う。また先輩方も、四月からそれぞれ道に進まれる事になるわけですが、健康に気を付けて、スタートを切って下さい。先輩方には、言葉に尽くせないほどお世話になりました。また何か、何もお礼はできませんが、私達後輩がハカシに、援いております。簡単ですが、お礼の言葉とします。

日取近 思うこと

二年 田久保 著

先日 年のはじめにホリ  
さんが女子大學生を殺す  
という事件があったこと  
はあまりに有名であり  
ますが、私はこの事件を  
たいへん興味深く、ふだん  
読まない新聞を、まち  
遠しく思って、読んだほ  
どでありました。  
一向もへんな意味からでは  
ありませんか？(。)

というのもこの事件は  
たいへんにクラブにとつて  
も尚題の供通点があ  
ったと思つたのであり  
ます。  
犯人の逮捕で有名  
な日本の警察、むか  
しからつみ立ててきた  
ものが、たった一名の行  
儀のためにくづれて  
しまふのだという行

がクラブとたいへんはて  
いまと思ってたのであり  
ます。その点にも十分  
考えながらニハから  
クラブをやっこのころ  
と思ひます。

今思ひこのこと。

。もう2月になるな、

。今年はずむのか

あただかいのどううか

。コマースヤルが多すぎる。

。洗ぎいのコマースヤルは  
どゆもうそ

。ピクレデイ

ミートケイ どちらが

かわいいか？

。スキーにはどんな

かっこをしこのころか？

☆しかしバカバカしいこと  
ばかり思ひこのうかぶ。

# 荒崎にて

一年 木村田元司

僕が初めて海を見たのはいつのこと  
であったであろうか。それはもう思い出  
せないほど幼い頃のことであろう。僕は昔  
から海が好きでよく遊びに行ったもので  
あった。だが以前の自分には海は自分  
の生活や考えなどに環境的に直接関係  
あるものとは思っていなかった。だから農  
業協同組合には世話になってはるが、漁業  
協同組合など聞いたこともなかった。ヨット  
部に入り海のことや船のことや、海のま  
わりでの生活などで知るなかったことや  
わからないことや、おもしろいことなどが  
あまりに沢山あり驚いた。クラブに入

って最初にしたことは、ヨット  
に乗る先輩や他の大学の人は遠ま  
見て、友合を連れて海にかかうは  
く力であった。これを見てか、こい  
い、すごいと思ひ自分もこいつい  
う友持ちを持ちたいと思つた。考  
えれば日本は小さな島国で回  
りは全て海なのである。昔ここを  
出ようと思つた人々はハヤでも船で出な  
ければならなかった。だから昔の日本  
人は皆、船というものに関心を持  
ていたと思ふ。しかし今は飛行機  
でどこへでも行けるし、短時間で済む。

だから今の人は、船や海に対する  
考えが薄いと思う。僕もやはり海  
へ行った泳ぎに行く所であつたし、船  
に乗ることなどはほとんどなかつた。しかし  
海や船などは自分の日常の生活な  
ど関係が無へと思つていたが、ヨット部  
に入リ、今まで自分が失なつていたもの  
を、つかまえることができたような  
気がした。

## 風見

一年 鎌田 毅

私は東京経済大学体育会  
ヨット部の一年として一年  
間すごしてきて一番クラブ  
について思つたことは時の  
立つ早さに驚いたことであ

ります。去年の四月に入  
部してすぐ葉山でのシ  
ス合宿、なんて長く、つらい  
合宿、なんだらうと思ひな  
がら、葉山での合宿は終り  
そして本拠地の荒崎での  
合宿、始めは、ずいぶん人里  
離れた所に来たなと思ひ  
ました。が、なればそんな  
事は、気にもせず、乗りたか  
つたヨットに、念願がなつ  
て、やつと乗れヨット部に  
入部したという自感がわ  
いてきたものでした。こ  
んな様にして、季節は春か  
ら夏へ、ヨット部も合宿か  
ら高島屋の強制バイトと

ヨット教室へこの時期の事は今でもよく覚えています。一ヶ月の夏休みも終りヨット部は秋のレース合宿に入り今度は私達もレースに参加するという事だったので、ヨット部一同皆レース合宿に励み、そしてレースに望んだのですが、まだ私達のかはレースに勝てるかに達していません。たので、未進出には成りませんが、せんでしたけど敗けた敏しさは、今でも頭に残っています。レースも終り、合宿も終りシーズンはオフになったので、これでクラブの活動はないと思っていたのですが、12月に今までで一番つらかった

高島屋のバイト自分でもよくこれだけ出席したなと感じています。そして年も明け、今、自分であらためてこの一年間をふり返ってみると高校生ぽかった自分がやっと大学生になったのだなと思います。

|| 終わり ||

風見に寄せて  
二年 桐山 尚

新しい年ははじまり僕たちが入部した時期を尙近に感じ、今日この頃。あの当時の懐かしさとともに一年間の生活を



も振りかえしてきます。

合宿という環境には慣れたものの帰宅時の「喜び」を感じているにあたり、やはり合宿は大変なものと思っておくすのも僕だけではないと思えます。普段（作り）慣れていない料理を食当の機を利用して半分、実験的につくる禁しみと期待感は忘れられません。また、ヨットに乗って海上に出た船が加速を増す時の快感も体にいつまでも残っています。

海に落ちた事艇ともに流された事など失敗も含め様々に相心起すれば拳杖にいとまもありません。

今、この時季、思い出だけにひたって満足してきます。

この一年を振り返って  
一年 沢井淳  
早いもので、私がヨット部  
に入部してからも一年にも  
なろうとしていきます。さき  
ほどまでの「東舟」での激  
戦の興奮もさめ、その後食  
べ長ギョーザの臭いに一人  
で閉口しなから思うことは、  
この年は自分にとつて本当  
に波乱に満ちた一年であつ  
たという事です。  
そこで今日は印象深かつた事  
柄を月ごとに分けておおく  
りしてみたいと思います。

4月

入部して即、合宿に  
参加。この時初めて  
ヨットが風上に向つ  
て走れることを知り  
ました。たくさんの  
ヨットが真っ白のセ  
イルに風をいっばい  
にはらんで帆走して  
ゆく姿に感動したの  
と、他の一年生（K  
とM）と合宿所の台  
所で隠れて酒を飲ん  
でいるのを見つかつ  
て先輩に叱られたの  
と、岩のように固い飯  
と、海のようにしょ  
っぱいみそ汁の味を

昨日のここのように覚  
えています。

5月、生まれ初めて国技館  
で相撲を見ました。自  
分のつけた電光啓示板  
が天下のNHKを通じ  
て全国放送されるとい  
うのは何とも言えない  
気持ちがありました。  
。光の熱さを痛切に感じ  
ました。

7月、ヨット教室に参加して、  
ある女の人の官能士に  
目まいを感じました。  
来年も来てくれるとい

いますね。

10月、再び葉山においで、  
風が吹けばとびそう  
な合宿所で一週目を  
過ごしました。

12月 高島屋の倉庫という  
のは夏暑くて冬寒く  
どうしようもないと  
思いました。

いろんな事があった一年  
でした。が、やはりドジな  
性格上、失敗の方が多か  
った気がします。しかし、  
来年からは又、新たな気持ち  
でがんばっていきたいと  
思っております。

無題

一年 伊藤慎一郎

私がヨット部に入ったのは激しい  
歓誘に引っさらつたやうな気も  
ないのに、いつのまにか入部して  
いたといふのではなく、大学  
に入つたら自動車部とかヨ  
ット部とか、クライダー部のよ  
うな乗り物による体育系の  
クラブに入らうと考えていたか  
らである。

学内に展示してあったヨット部の所  
へ行つて、岡野さんから説明を  
聞いた。その時はなかなか感一の  
はいくクラブだと思つたが、部入  
部員の顔を見ると、なんとヤク  
ザ風ではなにか……私はいし  
はしとまどつた。

しかし、桐山氏はヤクザではなく  
おとなしい怠慢な男であつた。  
その頃私は普通免許の試験を  
受けに行つていたので合格して  
かりにしようかと思つたが、また  
他に悩むべき事が数多くあつ  
たのだが、ヨット部入部を決  
意し、4月14日(木)に食堂で  
ヨットの本を持って来た。ヨット  
部の3年生あたりかと思われ  
れる男に尋ねてみた。しかし  
その男は不愛想で部の事につ  
いてよくわからなかつた。この  
男は後で、一年の橋本左内氏  
とわかつた。その日の帰りには  
私は特功隊が突撃するが  
ごとき意見を決し、部室の扉

をあけたのだった。

新入生は自慢ばかりして、イヤライイ男（退部）や、スケベ顔した東京のズン組、ゴボウにものはえたような男（クモダ）などを知った。最初の合宿で、左内氏は、毎朝あの山へランニングするしと山を指さして言った。私は大学のクラブともなるとさすがだねあ〜と感バー長のか、それはまあ、赤なウソであった。このおかげでヨット部に対する印象をだんだんと悪くし、嘘がやたらと多い事にグニメツを感じた。そして気がついた時はうろつき少年の仲間入りをしていたのだった。早いもので、私がクラブに入っ

まもなく一年もたっ

その間アルキルに対する抵抗カもつてきたが、一番うれしかったのは、スに出来た事で、一かも新艇とは、忘れたもの。クラブに關しては、い事はかりではない。何度かやめた、と考えた事がある。その理由は、まずオーに合宿やバイトの為に、大学を休まねばならぬ事で、これについては、両親も少々うるさい。オニにやたらと金がかかる事で、親に服を買ってもらったのもせがみにくい。オニに休日がない事で、通学時間がやたらとかかる私は、遊ぶ暇はなく、中学、高校時代の

友人や知人に誘われども断わる  
事が多く、とてもつらい。他にハ  
イトの多々事などない。いろいろあ  
るか。つらいからといって避け  
ようとは、少しも思わない。ただ  
苦しいというのは、高校までのク  
ラフの方か上で、大学の方が甘  
いようだ。しかし、クラフの良い所  
は自分の事はかりでなく、クラ  
フ全体の事、他人の事も考えら  
れるようになる事も最も大きな  
長所ではなからうか。とにかく私  
はなまけるのはあまり好きじゃ  
ない。後で悔いる事のないうら  
一生懸命にやるつもりでいる。

一年まふりかえって

一年 村瀬靖人

私が東経大ヨット部に入  
ったのは昨年の五月頃であつ  
た。はじめは一年のめんどうも  
慣れなかつたためか、あんまり話  
すことはありませんでした。  
でも一月二月たつうちに一年生  
好むびに諸先輩がたのあたた  
か、心に分れてヨット部の人  
たちが、なんて良い人たちなの  
だろうと思ひました。で、そんな  
わけで僕もいろいろ良い友人が  
できました。

橋本左内君は僕にとつても親  
切で、食前もよく、タバコをめん  
母に一箱づつくれました。

鎌田君はディスクが好きで僕にいろ  
いろ教えてくれました。

伊藤藤君はなかなかの「勝負氏」です。

松浦君は京都弁でなかなか日本  
的情諸をこぼれた一億人の味方です。

沢井君は背が高く、個性的でと  
てもステキな人間です。

小林田君は、なかなかいうも飢えて  
いるようです。

安部君は頭がもじゃもじゃです。でも

井上陽水には似ていません。

藤田君はお酒を飲むと、ラーメンを食べ  
てラーメンにして出す特技を持っています。

岡田君はなかなか友情に厚く、葉山  
ではまんじゅうを2・5個おごってくれました。

相山君は、たいへん偉い人です。

征矢さんはとてもステキなお  
嬢さんです。

以上が私のとてもよい友人たちです。

昨年流行した言葉

「チテ」「突れだヨ」「なんちやて」

「勝負」「セセン」

その他にも二、三、四年生にステキ  
な先輩が何名かいるようです。こん  
な又ト部が永遠に続くことを望み  
ます。「東経大又ト部 バンザイ」と  
風見には書言っておこう。

77 E / 205 RYU OKADA

一年 岡田 龍

僕が新しい希望に夢をふくらませ、大学に入学して以来早いもので一年たってしまった(正確には10ヶ月)とにかく今までいろいろなことがあったが一番大きいことはヨット部というサークルに入ったことです。僕は入学した時はヨット部のことは全然知らず、いろいろな部(柔道、少林寺、テニス、スキー等)がヤミイにきたが僕は高校時代からもし大学に入ったなら遊ぶことに熱中するのだと心にきめていたので、いずれの部のヤミイもことわった。そして部に入らず、毎日まじめに勉強して、反面子供のころに帰った

ようによく遊んだ。遊ぶといっても僕は高校の時から、でもまじめで町でブラブラ遊ぶことはなかった。毎週下宿で読書をしてテレビを見ると、いつでも毎日ニュース(NHKやプロ野球)しか見ず、国分寺、はたまた新宿などの町へ一回も行ったことがなかったのです。ですがどうい生活をしていこうかに僕は自分の頭がおかしくなっていることに気づき、このような生活は自分をダメにすると思ったのです。そこで今の自分(この当時)の生活をかえるため何かおもしろいことをやるかと思ひ、なぜかヨット部に興味をもったのでした。というのはこの当時僕は小さい頃からヨットは港



で大きなもの(ワルサー)しか見  
たことがなくてこの時も大き  
なヨットしか想像できなくて  
もし、ヨット部に入ったらどこか  
遠い国へ行けると思ったので  
僕はヨット部に入る決意をし  
たのです。案の定、入部早々  
一日目に僕は森さん(4年生)に  
遠い国(地方)に連れられても  
らいまーた。そこはまたなんと  
も辺ぴなところでまさしく  
さいはてのハーバーライト。そこ  
は日本の地図にはもちろん  
のっていない。ただそこに住む  
住人はその地を甚い崎とかア  
ラサキダオーとか言っていた。

さて、合宿所に初めて来て合  
宿所のすばらしさに感激し  
この時、これからずっと3年あ  
まり強制的に合宿させられ  
ると思うと、うれし涙(ア)が  
ぽとぽと流れ出すのをひっしに  
こられていた思ひ出が今でも  
深い心のキズとなって残っている。  
そして幹部と初対面、とってもし  
人達だと思った。そして一年との  
初対面、とってもしえらそうな  
人達だと思った。それに全然  
パープーだと思わなかった。  
さて、話はうそだか本当だか  
わからなくなっただので、ここで

入部して6ヶ月の感想、幹部  
の人達、他の一年生にすいふん  
とお世話になり、いろいろと教  
わってもらった反面、僕と一は  
いろいろと迷惑をかけまし  
た。この場をかりて「どうも  
すみませんでした」  
でもみなさんには反抗的  
態度をみせずにとってもいい  
子でいたと思います（よく  
みんな（一年）にはセコイと  
言われただけだね）



一年を振り返って  
帆走部一年橋本左内  
未知の国への門をたたいたのが四月、この一年間はなんと早かつたことだろう。葉山の最初の合宿での六時起床の寒さと辛さ、食当の時の大失敗、しかしこれら幾多の困難も諸先輩方の暖い御指導、それと他の一年の友たちによる激励により最近は合宿活動又一般生活に於いても少々自信めいたものも出てきた。しかしながらヨット技術そのものについてはまだまだ……

僕が思うにはアマチュアスポーツ、特に学生時代のスポーツは、これは文化活動、その他一般に言えると思うが、勝負が第一目標ではなく勝敗のゲームの途中から得たり盗んだり、まねたりする向かか必要だと思ふ。ボクがスポーツ関係の事で一番印象に残っていることは中学時代のバレエボールの試合の時の事だ。た当時僕は中学二年だった。クラブの試合で旭町へ行き、その中学と試合をした。試合中、相手選手

といざこざが起り試合は  
負けた、僕達ははっきりと  
結着をつけたかった、  
しかしコーキに言われそ  
のまま帰った、そして後  
に県大会予選で旭中と対  
戦し、辛勝した、試合後  
旭中のキャプテンが来て  
僕と顔を見つめ合った、  
それだけでよかった、言  
葉はいぶなかつた、  
今年僕も二年目にな  
るので、気を引きしめ一  
層努力したい

## 昭和52年度

### ヨット部の主な出来事

#### 1. 左内・沢井の海木みそ汁

葉山のリース合宿の時、上記の食事が当番が、朝食に塩だししてないワカメをそのままみそ汁に入れ、とても塩がらいみそ汁になった。おまけに「ごはんはカリカリ、卵はこげこげで、部員一同一口も飯に手をつけなかった。

#### 2. 沢井海峡夏景色

これは、一年生の沈の練習のため泳げない者にどきょうを付けるため、荒崎の海峡横断を行

なった。一年生の中で「またま一番に水泳に自信のあった者が海峡の真ん中あたりで、突如おぼれだした。始めは部員一同「ヨットダンでやっているのだ」と思ったが、本人があまりに苦しそうにしていたので、全員で助け出した。

#### 3. 水泳大会

9月の末に行なわれた葵祭水泳大会でヨット部は体育会で堂々ニ位であった。内容的には成績にくらべてみるとたいしたことなのではないが、クラブ一同の団結でもって勝ち取ったものである。なお商品はビールでヨット部は30数本かせいで葵祭でクラブで飲みました。

#### 4. パープルス惜しくも一回戦負け

茶祭のソフトボール大会で  
 ヨット部は二坪生で出場。大キは  
 小人沢井君を中心に二回戦、2回  
 の経営と対戦。後ぜめを取った  
 のがまちがいで一回早くも守備  
 の乱れが出て大量8点をくら  
 り味方の打線がもう一つふる  
 わず結局3回コールド負け。  
 「来坪こそはー」といきこむ  
 沢井主将も来坪は自由契約  
 選手の身に。来坪は一坪  
 かろうまい奴を補強しよう  
 来坪こそは決勝進出そして  
 優勝を!

5. ヨット部付属麻省部の二坪  
 番付表が発表になりましたので  
 発表します。

各人の麻省のウケ

藤田 今ヨコボ見つけの藤田は有名  
 すばらしいなまき麻省

西村 頼安部 沢井  
 藤田 久保  
 森田 久保  
 藤田 久保  
 横網 関脇  
 大関 脇  
 南 脇  
 四つ生は入幕せず不明  
 序口 橋本、鎌田  
 森田 彼の麻省は  
 理屈麻省  
 来坪は序ノ口  
 てしよう  
 村瀬 彼はすばら  
 しい麻省のカン  
 を持つ

安部 彼はすばらしい麻省のよみと役満  
 をだす。プロ省士。来坪は横網確定

田久保 役満フリの田久保。フリ始めれば  
 ズルズルと勝ちはじめると恐い存左

沢井 彼も今ヨコボが多くせこせと上る  
 麻省

橋本 やたら人の迷惑観みず なまき麻省

鎌田 ドラ付麻省の鬼で得意リードラ2  
 390点。しかし橋本君よりは将来性

あり。

部員紹介  
一年生の部

○ 橋本左内  
1. 趣味 マーじゃん、パチンコ、競馬、女性

2. 学部 経済

3. 特技 国士無双をやること。

○ 岡田 龍  
1. 学部 経済

2. 趣味 パチンコのみ、お金をためる事

3. 特技 フニャ フニャ言うこと。

○ 森田克司  
1. 学部 経済

2. 趣味 ドライブ

3. 特技 タバコを口でまわすこと。

○ 征矢ひとみ

1. 短大

2. 趣味 お料理

3. 特技 さいほう。



○ 鎌田

毅

- 1. 学部 経済
- 2. 趣味 パチンコ おどり
- 3. 特技 女性の心をいともめること

人 経営

靖 経営

瀬 経営

村 経営

パチンコ

おどり

女性の心をいともめること

パチンコ

おどり

○ 藤田昌成

- 1. 学部 経営
- 2. 趣味 マーシャンパチンコ
- 3. 特技 酒を飲んで……です。

マーシャンパチンコ

酒を飲んで……です。

○ 守部章吾

- 1. 学部 経済
- 2. 趣味 パチンコ
- 3. 特技 なし

パチンコ

なし

○ 相山 尚

- 1. 学部 経済
- 2. 趣味 ?
- 3. 特技 ?

経済

? (○○○かぞえ歌)

? (○○○かぞえ歌)

○ 松浦 啓

啓

- 1. 学部 経済
- 2. 趣味 パチンコ
- 3. 特技 おギー、小唄

経済

パチンコ

おギー、小唄

○ 伊藤

1. 学部

2. 趣味

3. 特技

藤 慎一郎

学部 経営

趣味 パチンコ

特技 ?

車

ハしたノ!

# ☆ パチンコ 秘 奥戦法 ☆

龍岡田先生の

パチンコは本当は僕はそんなに好きでないけど、やる回数が多いので好きに見られているんだよね。よくやるといっても本格的にはやり始めたのは、大学に入ってからだからまた“そんなにやていないのだよ”

さて、僕のパチンコ必勝作戦法の国分寺版

① ナホリは一発をぬらうには不適、でも通いなれば大箱一箱は毎日でもためられる。まあ～初心者、へたな人は一箱でかまんするほうがいい。(いたってナホリは初心者むき)キングの台の70%はいい。

② モナコは開店時に行き、その時は打止めをぬらうといい。モナコの台のくぎは、他の店とは違い、日によつてくぎの角度の差がはげしい。モナコで打止めをぬらう時は行く日の前の夜に打止め台の台を見て、その日は、その台を除いて開店時に3台くらい台を取ってやってみるのが上等。モナコのゴリラの台は入る率がいい。

③ ベニスにはなにげなしにパチンコをやりたくなった時、やるといい。そして人が夕刻いる日、たとえば新装開店日

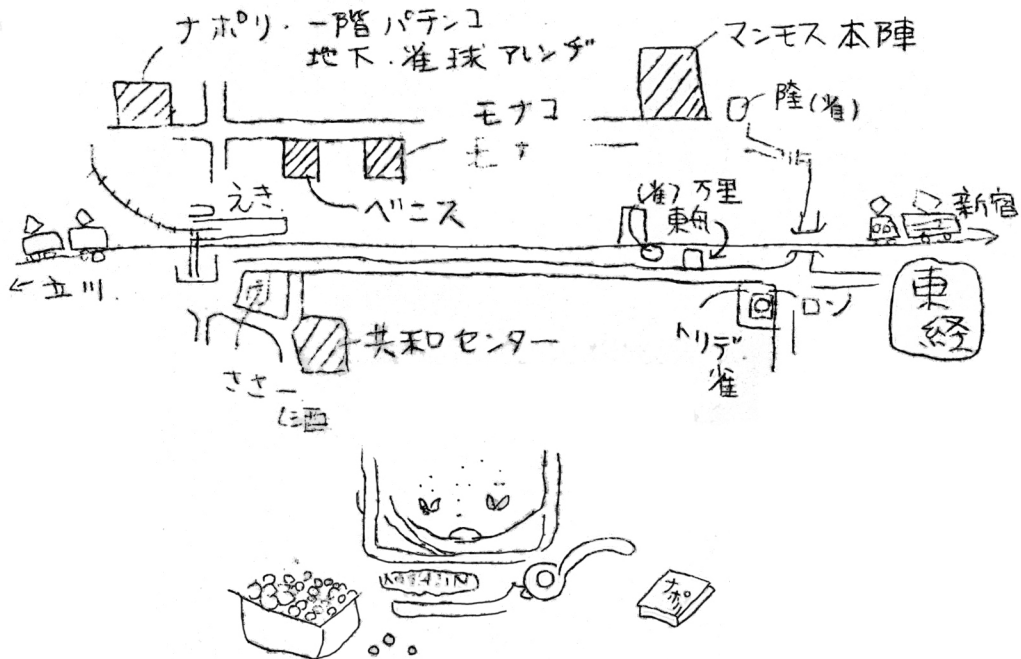
④ マニマス(本陣)は、すたニとしかないので？

# パチンコの心がまえ

- ひとつ 500円するまでやる。でも千円あったらアホ
- ふたつ すぐたまたま次の日 とりかえず
- みつ 体調のいい時やる。(酒のんけ"あとやる"とアホ)
- よっつ でない時は あきらめが かんじ
- いつつ 好きな台をつくる
- むっつ パチンコはあくまでも遊ぶとする。真ん中にやるのはアホ

さて 最近 国分寺では ずっているのでも 当分、国分寺では、やるのはやめます。あしからず。

## パチンコ屋 分布図 (国分寺)



第1回 東京経済大学ヨット部

新人選手権大会

昭和52年 11月 26日

- |    |               | 賞品              |
|----|---------------|-----------------|
| 1位 | 沢井、村瀬<br>J965 | ローバスマーズ<br>ミニ洋酒 |
| 2位 | 森田 安部<br>J235 | プレイボーイくつ下       |
| 3位 | 鎌田 松浦<br>J244 | たばこ             |
| 4位 | 橋本 園田<br>J39  | 賞品なし            |

天気-晴れ 風-3~5m/h

J-ス-上、下、まわりのみ

6L-ス 合計得点

第1回 東京経済大学ヨット部

新人選手権大会を終えての

各選手の談話をレポートしました。

リポーター by 安部章吾

「え〜 非常にあがっておりますが、ニューコンペで誠にラッキーだったと思います。村瀬君がたいへんよくやってくれたと思います。沢井※さすが優勝者ともなると他人をたたえる余欲があり、すばらしいですね

「え〜 僕はクルー(岡田)が悪かったのでも自分の実力が出せませんでした。レース中にクルーがフットバンドに足をかけずに落水したので1位をとれなかった。こういうことなら1人のなかよく走れただろう」橋本※ さすがドンケともなると他人を責めますね。優勝者の沢井君とは対照的ですネ。

「メガネを忘れスキッパーに迷惑をかける」松浦※ いつもの松浦君に比べ少しひかえめでぶきみな感じてですね。

「クルー(安部)はよかったのですがスキッパーがぶーたれるので2位になりました。その点沢井君の冷静さには負けました。まあJ965とJ235のちがいでですね！」安部

※ 安部君も沢井君をたたえるあたりさすがですね。すばらしい人です。リポーターとしてつくづくいい人だと思いました？

東京経済大学

体育会ヨド部

